



世界の最先端技術を究める

## ユニオンツール株式会社

代表取締役社長 渡邊裕二氏



私たちの暮らしに欠かせない電化製品、自動車、パソコン、スマートフォンなどの製品に必ず入っているプリント基板。ユニオンツール株式会社は、そのプリント基板に穴をあけるPCBドリルを生産しています。小さな工具は世界のトップシェアを占め、約60年間、会社の柱として成長。2025年3月に代表取締役社長に就任した渡邊裕二氏からお話を伺いました。

### 長岡の地の利、人の利を 最大限に活かして発展

—1963年に開発されたPCBドリル(写真1)は国内外でトップシェアを誇る技術ですが、どのようなニーズがあったのでしょうか。

渡邊 創業者の片山二郎は、大手工具メーカーの依頼を受けて、東京の小さな町工場で自ら設計・製造に取り組み、PCBドリルの開発に成功しました。私が入社した1990年代も、片山は社長室に設計机を置き、現場感覚を大切にしていました。長岡工場訪問時には技術者を集め、直接指示を出していた姿が印象的で、その姿勢こそが60年にわたる改良と成長を支えてきた要因だと感じています。

—そのほかにも成長を遂げた要因はございますか。

も竣工したそうですね。

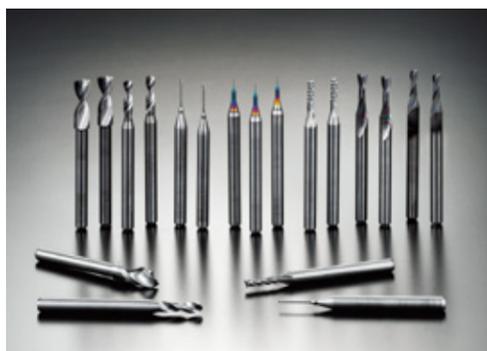
渡邊 見附に第三工場を新設しました。見附では私たちの第二の柱である超硬エンドミル(写真2)の生産をしています。エンドミルの世界市場は、PCBドリルよりも圧倒的に大きな市場です。その市場に対してPCBドリルの成長スピードよりも速いスピードで売上を伸ばしていく計画です。

人手不足の問題を見据えて、工場 のさらなる自動化を進めて若者が働きたいと思える環境を作り上げていきます。この大きな目標が達成できれば、売上を伸ばしながら、収益性を上げることが出来ます。

—社長のお話から技術と生産力を大切にしていることが伝わってまいります。

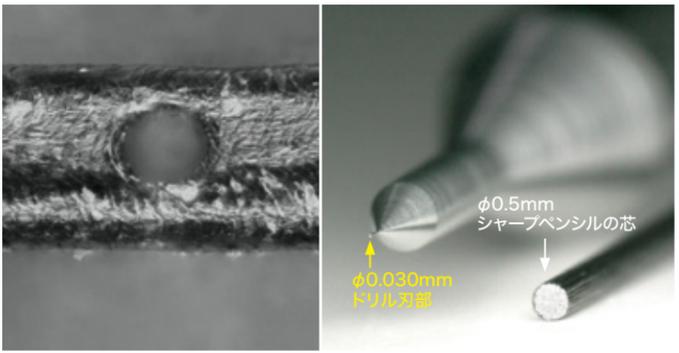
渡邊 当社は技術の会社です。私自身もずっと技術部門で仕事をしてきました。創業者も、片山貴雄会長も前大平博社長も技術者です。「優れた製品を供給して社会に貢献する」という経営理念の実現のために、当社は常に世界最先端の技術の確保に努めてきました。高い技術力で優れた製品を供給すれば、自ずと社会に貢献できます。

当社の技術にはPCBドリルの高



【写真1】 PCBドリル。電子機器の小型化によりPCBドリルも小径化の需要が急増。特にULFの技術で、工具の長寿命化、穴品質改善、高アスペクト化を実現しました。

い精度とコーティング技術のULFがあります。ULFは工具の表面につける非常に薄い膜で、この技術は以前からありましたが、当社が新しい用途を発見し、耐久性に優れた高付加価値の製品開発を実現しました。また、ダイヤモンドコーティングエンドミルのUDCシリーズは従来、研削や放電が常識であった超硬合金等の加工に切削という技術を可能にしました。このシリーズは業界内で非常に高い評価を得ています。耐久性は言うまでもなく、切削する材料の高硬度化が進み、この工具でないと削れないという状況になったとき、この技術の真価は発揮されるので、将来がとて楽しみます。



写真右はマイクロプローブ検査用治具加工用φ0.03mmのドリル。PCBドリルで培った技術を活かして開発した、超精密ドリル。シャープペンシルの芯との比較で、その精密さが分る。写真左は超精密ドリルを使って髪の毛に穴をあけた様子。

対しても自分たちで迅速に生産ラインを増やすことができました。製品の仕様が変更しても自社で機械を改良できるので、お客様の望む製品をスピーディーに仕上げる事が出来ます。外注に出すよりも設備投資が安価で、開発費用を抑えられるというメリットもあります。一見、受け身のようではありませんが、内製化による改善の積み重ねによってPCBドリルは世界へと販路を広げてきました。

—設備の内製は、大きな強みですね。工場が長岡に出来た経緯と生

### 急成長への期待が高まる UDCシリーズ

—長岡の企業とも連携されているですね。2024年には見附の新工場



【写真2】 超硬エンドミル。穴をあけるPCBドリルに対して、側面にも刃があるエンドミルは3次元形状を削ることができる。特に外形6mm以下の小径サイズでは、その品質と豊富なラインナップに定評がある。金型産業をはじめ、自動車産業、携帯端末機器、航空機部品など幅広い分野で使用されている。



代表取締役社長 渡邊 裕二氏

以前はスキーを楽しみ、10年ほど前からはロードバイクに夢中。春から秋の週末は必ず八方台や日本海へと自転車を走らせています。時おり電車や車を使って近県にも遠征。一番遠いところでは北海道の函館まで行かれたそう。「山道が好きで、辛いけれど峠を登りきったときの心地良さは最高です」と渡邊社長。

の皆様へ感謝の気持ちをお伝えできたら嬉しいです。

—最後にON読者の方へメッセージをお願いします。

渡邊 私はユニオンツールという会社が好きです。私たちの生活の中で様々な製品に使われているプリント基板に穴をあけるドリルを作り、世界の暮らしを支えている会社です。当社のことを知っていただき、株主になつていただけたらありがたいです。技術だけでなく生産の部門も含めて社員が一つになって最新の技術を追求し、優れた製品を提供することで、社会に貢献していきます。どうぞ応援をよろしく願います。



見附第三工場

## 企業紹介

### ユニオンツール株式会社

(東京証券取引所 プライム市場 銘柄コード6278)

歯科用のドリルの製造から始まり、プリント基板用に穴をあけるPCBドリルと自動車や電子機器の金型の加工に使う超硬エンドミルなどを製造している。プリント基板や電子機器の世界市場の拡大に伴い、売上を伸ばして成長。現在、製造拠点を日本国内に2拠点(長岡・見附)、海外に3拠点(台湾・上海・東莞)を構え、販売拠点は、日本国内のほか海外に子会社を5拠点(米国、スイス、香港、シンガポール、タイ)有している。どの拠点で、何を生産し、何を販売するかを常に検討し、グループ内での拠点の新規設置・移転・統廃合を柔軟に、かつ速やかに実施している。



本社ビル

所在地	本社/〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-1 長岡工場/〒940-1104 新潟県長岡市摂田屋町字外川 2706-6 見附工場/〒954-0076 新潟県見附市新幸町 3-1
代表者	代表取締役会長 片山 貴雄 代表取締役社長 渡邊 裕二
設立	1960(昭和35)年(創業1955年)
資本金	29億9,850万円
売上高	326億600万円(2024年12月期)
決算期	12月
従業員数(連結)	1,454名(2024年12月末現在)
事業内容	切削工具、直線運動軸受、エンドミル、測定機器等金属加工機械の製造と販売
事業所	工場/新潟県長岡市・見附市、営業所/長岡・北関東・静岡・安城・名古屋・大阪・福岡、研究所/静岡県三島
海外拠点	米国(カリフォルニア)・台湾・スイス・上海・香港・シンガポール・東莞・タイ



全自動コーティングドリル詰め替え機。生産性をあげるために自動化を進めている。設備を内製しているのがユニオンツールの強みでもある。

### 内製と自動化で他社との差別化へ

—素晴らしい技術力で、他社との差別化をされているんですね。

渡邊 実は工具の差別化は厳しく、当社の競合メーカーは中国にあります。工具の形状は見て分かりません。ですから簡単に真似できません。差別化できるとしたら生産設備と生産技術

### 地域の学生にアピール採用へつなげたい

—世界情勢を見据えて経営をされていますが、中長期の目標について

術力で、同じように見えても全く違う製品を作らなければなりません。だからこそ品質が安定し、他社がコピーできない高付加価値の技術開発に努めています。

—先ほどお話しくださった製造の効率化も他社との差別化になりませんか。

渡邊 おかげさまでリーマンショック以前に比べて生産性は2倍になっていて、さらなる自動化を推し進めているところです。

—ところで、海外での展開をどのようにお考えですか？

渡邊 以前の売上比率は海外が50%で国内が50%程度でしたが、現在は円安の影響もあり、海外比率が70%を超えています。日本より市場規模の大きい北米とヨーロッパでエンドミルの売上を伸ばしていく予定です。PCBドリルはプリント基板の生産の大半が中国で行われているため、必然的に中国の市場が大きくなります。米中対立の問題もありますので注視してまいります。

お聞かせください。

渡邊 プリント基板の市場は年々拡大しています。PCBドリルの競合は主に中国の2社ですが、ULFコートドリルが他社との差別化により需要が高まっているので、当社の売上増が期待されます。そして市場の大きなエンドミルに対しては、見附工場の自動化により生産性を高めてシェアの拡大に努めます。人材の確保についてはPR不足の面もあるのですが、当社のことを知っていただき、積極的に採用活動を行っていきます。長岡には高校がたくさんあり、長岡工業高等専門学校と長岡技術科学大学もあります。地域の優秀な学生から入社していただき、ともに当社の発展のために力を尽くしていきたいです。

—地域とのつながりという点で御社は社会貢献の活動も数多くされています。

渡邊 「ユニオンツール育英奨学会」を設立して、理工系学生への奨学金給付や大学の研究費用の助成をしています。また、新潟大学のスポンサーになりましたので、学食で学生さんが使うトレイには当社の名前を入れたいただきました。2017年、長岡工場の敷地内に開園した保育園の



見た目が同じ工具に、いかに高付加価値の技術を開発できるか、全社をあげて取り組む。世界に通用する技術が雪国の長岡と見附から誕生している。

「ゆにおんの社」は当社の社員だけでなく、地域のお子さんも受け入れています。少しでも女性が活躍できる環境づくりの応援が出来れば良いと思っております。

—今号から連載を始める仲道郁代さんのコンサートも協賛されていますね。

渡邊 創業者の傘寿をお祝いする会でピアノ演奏をお願いしたご縁で、2000年からオフィシャルスポンサーになりました。この他、オーケストラのコンサートや障がい者自立支援機構、パラリンアートへの協賛をしています。音楽や芸術活動の支援を通して、当社がお世話になっている地域